

# シスコISRの 帯域外管理

## 概要

帯域外管理は、監視、サービスの復元、またはサービスに影響を与える問題の特定をおこなう方法として、リモートサイトまたはデバイスへのアクセスに長い間使用されてきました。過去には、帯域外アクセスの最も一般的な方法は、アナログポットライン（普通の古い電話サービス）またはISDN回線を介したPSTN（公衆交換電話網）でした。リモートサイトのデバイスに接続されているダイヤルアップモデムまたはISDN機器は、メインサイトの管理者からの着信コールを受け入れます。これらの通信線は、今日でも一般的に使用されています。

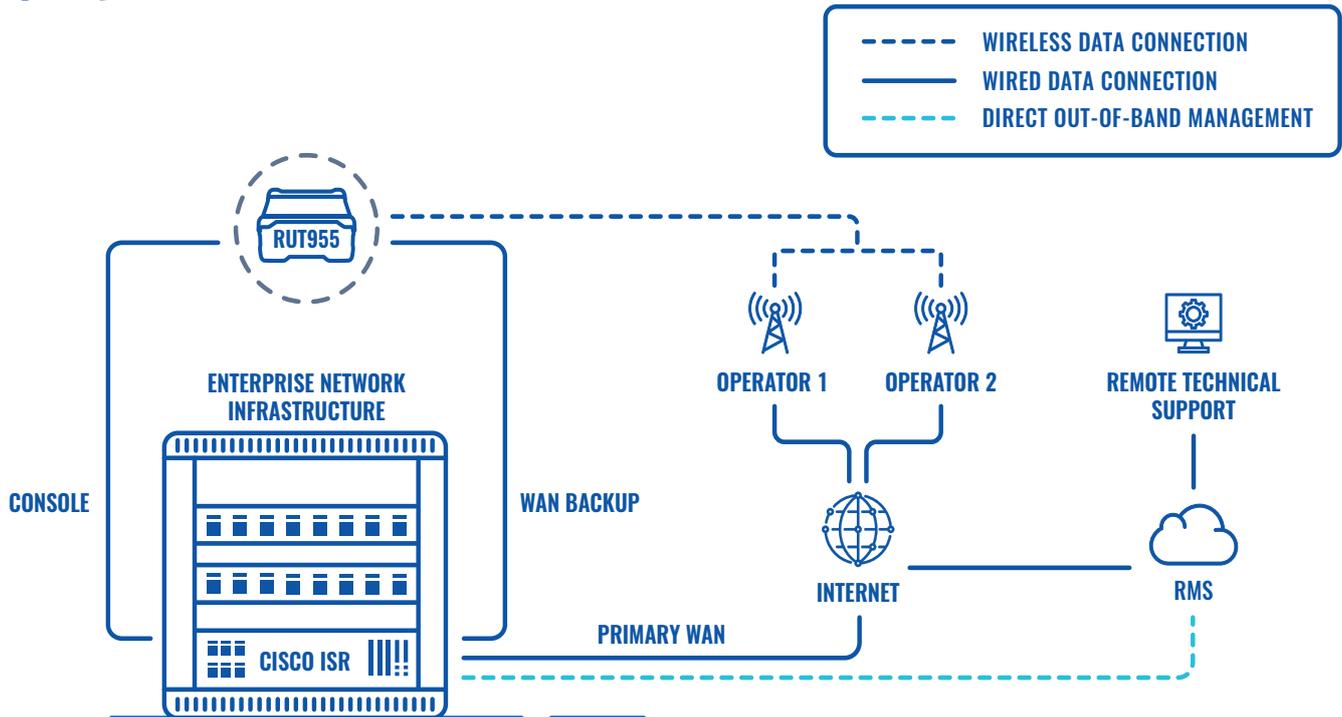
## 挑戦

帯域外管理のための従来の接続方法は、接続速度が遅く、毎月の料金が高くなる可能性があります。さらに、老朽化したモデムは脆弱で信頼性が低く、リモートアクセスソリューション全体が信頼できない原因となります。その結果、ネットワーク管理者は、インフラの帯域外管理のためのより良いオプションを必要としています。

## ソリューション

遠隔サイト監視の最も確実な方法は、認定されたネットワーク技術者が常時現場にいる事ですが、多くの場合、そのためのコストは大き過ぎて正当化できません。このような技術者は、有線インターネット接続でメインルーターにアクセスできない場合に備えて、オンデマンドで技術者を顧客の設備設置場所に派遣する技術サポートサービスを提供する専門企業に雇われているのが一般的です。ほとんどの場合、簡単な再起動や設定変更が必要です。しかし、認定されたプロのエンジニアを雇って遠隔地に出向き、問題をデバッグして解決する費用は、既存の公衆交換電話網（PSTN）インフラを帯域外管理のための信頼できる安全なリモートアクセスソリューションにアップグレードするよりも大幅に高くなります。マルチメガビットスピード、レスポンスタイムの向上、幅広いカバレッジ、柔軟な価格のLTEプランにより、4G LTEは帯域外管理だけでなく、WANバックアップにも最適なアップグレードの選択肢となります。

## トポロジー



## メリット

- 迅速な導入：テルトニカのリモート管理システム（RMS）を使用して、複数のRUT955を帯域外管理用に迅速に事前設定することが出来ます。
- ネットワーク保守コストの削減：認定テクニカルサポートエンジニアによる1回のオンサイト訪問でさえ、帯域外管理用のRUT955を1台設置するよりもコストが掛かる場合があります。
- サポートのスピード：プロのエンジニアがサービス統合型ルータ（ISR）のコンソールインターフェースにリモートで即座にアクセスし、時差や現場への移動時間を回避して発生する問題を解決することが出来ます。

## なぜテルトニカなのか？

RUT955は、デュアルSIMフェールオーバー機能を持つ信頼性の高いLTE接続を特長とするため、帯域外管理に最適なオプションです。つまり、ひとつの通信事業者が接続障害をおこしても、インフラが常に通信可能であることを意味します。RUT955は、すべてのテルトニカ製品をリモートで簡単に監視および管理できるテルトニカ リモート管理システム（RMS）と互換性があります。その上、RMSに接続されているISRルータのコンソールインターフェースにアクセスして、デバッグし問題を解決できます。

